



青少年赤十字

「リーダーシップ・トレーニングセンター」を 霧島市と奄美大島で開催



霧島市での参加者



奄美大島での参加者

7月～8月の夏休み期間を利用して、県内の小・中・高校生を対象に青少年赤十字「リーダーシップ・トレーニングセンター（トレセン）」を開催しました。

トレセンは、集団生活を通して、子どもたちが身のまわりや社会、人々のニーズに「気づき・考え・実行する」力を育み、学校や地域でのリーダーシップの取り方を身につけることを目的に毎年開催されています。

今年は、県立霧島自然ふれあいセンターのほか、奄美自然の家でも開催しました。

霧島では2泊3日、奄美大島では日帰りの日程で、赤十字に関する講義や救急法の講習、フィールドワークなどが行われました。



救急法の講習

参加した
生徒からの
声

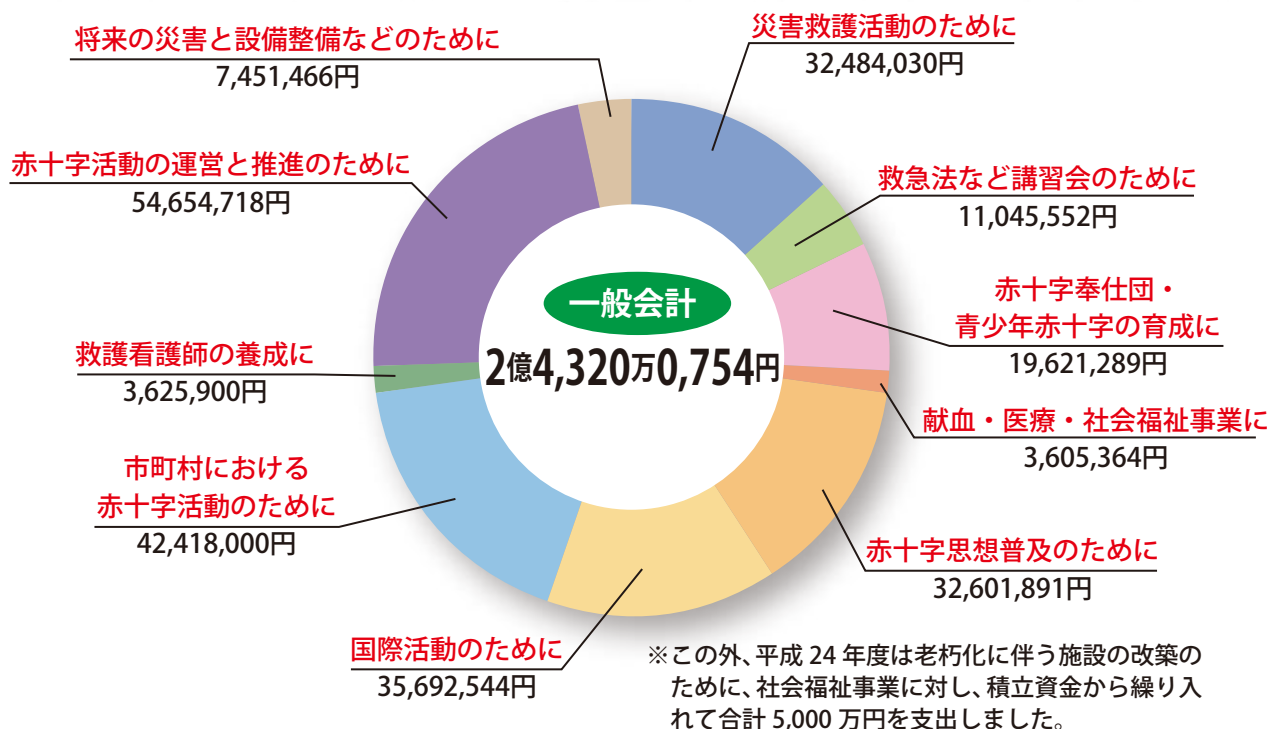
「友達がたくさんできた。」

「自分から積極的に行動することができるようになった。」

「この3日間でたくさんのことを学び、経験した。学校に帰って実践したい。」

平成24年度 歳出決算報告

皆さまから寄せられた活動資金はこのようにつかわれました。



■具体的な活用例



救急セット

<災害救護活動のために>

4,500セット

平時から災害に備えるため、県下に約4,500枚の毛布や緊急セットなどの災害救護物資を整備し、風水害や火事などの被災者にお届けしています。

<救急法などの講習会のために>

19,274人

広く一般の方々を対象に、応急手当の方法や、健康で安全に暮らすための正しい知識と技術を伝える講習を行っています。昨年度は、県内で19,274名の方が受講しました。



救急法講習



海外派遣事業 (ベトナム)

<青少年赤十字の育成に>

70,556人

県内の幼稚園・保育園・小中高、特別支援学校あわせて463校の加盟校(園)で、70,556人の子どもたちが「気づき・考え・実行する」を態度目標として地域でのボランティア活動や、海外の青少年赤十字メンバーとの国際交流などを行っています。

水の事故から命を守る！ 「親子 DE チャレンジ！水辺のレスキュー」

8月3日（土）、鹿児島市のレインボービーチ桜島にて、『親子DEチャレンジ!水辺のレスキュー』を開催しました。43名15組の親子が参加し、水の事故から命を守る知識と技術、そして水の楽しさについて、親子でふれあいながら楽しく学んでいただきました。

プログラムでは、まず、自己保全の手段として、着衣状態に適した泳ぎや、ペットボトルなど身近なものを浮き具として使う方法などを学びました。

また、誰かが溺れた時どうやって安全に救助するかを学んだほか、普段触れる事のない救助用具を体験していただきました。

参加者からは、「子どもが自分の身を守る方法だけでなく、親が子どもを安全に助ける方法も学べてよかった」、「親子で触れ合ういい機会になった。」との感想をいただきました。



ペットボトルが浮き具に変身



レスキューボードを親子で体験



溺れた人はみんなで力を合わせて助けよう

赤十字有功会総会を開催！

7月24日（水）、鹿児島市において鹿児島県赤十字有功会総会が開催されました。

赤十字有功会は、日本赤十字社の有功章を受章された方々で組織され、赤十字活動を支え、事業の推進に奉仕するとともに、会員相互の親睦をはかることを目的に、毎年開催されています。

総会には、会員47人（社）が出席し、平成24年度の事業報告・収支決算、平成25年度の事業計画・収支予算、役員改選について審議が行われました。

また、記念講演では、鹿児島経済研究所の福留一郎氏をお招きし、「最近の鹿児島県経済について」と題して講演が行われました。



有功会会長あいさつ



鹿児島県赤十字
血液センター

夏休みの思い出作り！ 「楽しく学ぼう キッズ献血 in 南さつま市」

鹿児島県赤十字血液センターが主催するキッズ献血が始まって、今年で4年。毎年、鹿児島市鴨池新町の鹿児島県血液センターにて、夏休み期間中に小学生高学年（4～6年生）を対象に、「楽しく学ぼう キッズ献血」を開催しています。

今年は8月25日（日）に、出前キッズ献血として、南さつま市ふれあいかせだでキッズ献血が開催されました。鹿児島市以外での開催は、去年の種子島西之表市につづき、今年で2回目です。また、南さつま市では昨年度の「ヤング献血フォーラム」を開催したのをきっかけに、今年度は献血推進協議会が設立され、当日は献血推進協議会役員の方々が見学に来られました。

イベントには、48名の子供たちに参加いただき、参加した子供たちは、普段入ることのできない献血バスの中で、検診医や看護師、献血者に扮して、『けんけつ模擬体験』をしました。『命の授業』では、命の大切さや献血の大切さを学び、保護者の方と一緒に楽しくご参加いただきました。

キッズ献血は、献血可能年齢に満たない小学生への献血啓発、また、夏休みの思い出作りや自由研究の支援として、たいへんご好評をいただいております。次年度も継続して開催する予定でございますので、みなさまのご参加をお待ちしております。



献血模擬体験を楽しむ子どもたち

「献血のありがたさを伝えたい」そんな思いができました。 ～献血ありがとう～いのちをつなぐ友の会

現在、血液事業におきましては、全国的に献血者が減少しており、特に若年層（16～29歳）の献血者減少が顕著です。鹿児島県においても、ピーク時の昭和61年には約8万6千人であった若年層の献血者数も、現在では約1万7千人（平成24年度）にまで減少しております。その一方で、少子高齢化に伴い、輸血を必要とする患者さんの割合が増え、輸血用血液製剤の使用数は増加傾向にあります。この“アンバランス”を解消するため、鹿児島県赤十字血液センターでもさまざまな工夫や努力をしております。

このような状況の中で、献血者への感謝の気持ちや献血することの大切さを伝えるために、平成25年1月25日、「～献血ありがとう～いのちをつなぐ友の会」が発足しました。輸血を受けた方やその家族によって構成されており、輸血経験者が、組織的に献血啓発活動を行うのは全国初の取り組みです。

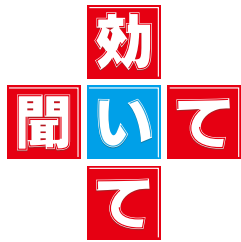
今後は、学校・各種セミナーでの体験講話やイベントの参加、情報誌への寄稿などさまざまな活動を通して、県民のみならず、特に若い世代へ献血の大切さを伝えていきます。

【お問い合わせ先】

鹿児島県赤十字血液センター 推進課
TEL 099-257-3141



血液センター所長あいさつ



VOL.59

患者様へのアロマセラピー

鹿児島赤十字病院 看護係長

わせた かずよ
早稲田 和代 (英国 IFA 認定アロマセラピスト)

鹿児島赤十字病院はリウマチ・膠原病、関節・脊椎外科・脳神経外科などの各診療科領域を中心として地域医療に貢献しています。中でもリウマチ・膠原病については「リウマチ・膠原病センター」として専門的かつ高度な医療を提供しています。リウマチ・膠原病は疾患の特徴として、症状の一時的な好転と悪化を繰り返し、病状の進行によって関節痛が増したり、睡眠障害が起ったりします。そのような患者様に対して当院ではアロマセラピーを取り入れたケアを行なっています。主にリラクゼーション目的や痛みや冷えを緩和する目的・コリや筋肉の張りの軽減を目的としています。症状に応じたアロマオイルをブレンド(作成)してその方が苦痛に感じている部位に塗布します。患者様からは「オイルを塗ると痛みが楽になる。」「冷えが少しよくなる。」「コリや張りが軽くなって夜いつもより眠れる。」などの感想を頂いています。アロマオイルには様々な効果が証明されていますが、私達の手を通して、患者様が少しでも身体の力を抜くことができ自然治癒力を高めることができるようお手伝いしたいと考えています。



特別養護老人ホーム
錦江園

ふれあい夏祭り

8月10日(土) 錦江園夏祭りが行われました。錦江園は現在改築中であるため、今年は仮設建物の駐車場での開催となりました。例年と異なる場所での開催でしたが、近隣の地域からもたくさんの方々に来ていただき、昨年より多めに準備した屋台の「焼きそば」や「からあげ」などが開始早々に売り切れるほどの大盛況でした。

舞台では、「Ka Hula O Ululani」の皆さまによるフラダンスや、太鼓・踊り・歌に加えて、錦江園男性職員フラダンスチームによる踊りも披露され、地域の皆さまと親しく交流することができました。また、入居者のみなさまも音楽に合わせて手をたたいたりしながら、夏祭りを楽しまれたようでした。



義援金は“全額”被災された方々へ

お寄せいただいた義援金は、全額が被災された方々のお手元に届けられ、その一部を日本赤十字社が手数料などに充てることは一切ありません。

東日本大震災義援金は、平成 26 年 3 月 31 日まで受付を行っております。

なお、このほかに、『埼玉県竜巻災害義援金』、『埼玉県台風 18 号災害義援金』、『平成 25 年 9 月 京都府台風 18 号災害義援金』を、平成 25 年 10 月 31 日まで受け付けております。

皆さまからの温かいご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

知って 役立つ 技術

毛布を使って、知って役立つ赤十字講習

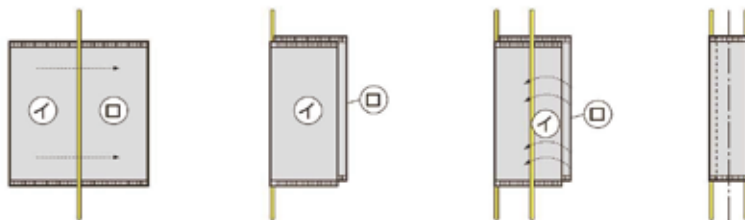
毛布には、様々な使い方があることを皆さんはご存じですか？

■担架（赤十字救急法より）

- ① 6人から8人程度で、傷病者の両側の毛布の端をしっかりと巻いて、それを上からつかんで持ち上げれば、毛布で担架搬送することができます。（右図）
- ② 毛布と丈夫な棒があれば、担架の代わりになるものをつくることができます。（下図）



① 毛布を使った担架



② 毛布と棒を使った担架

ご自身や故人の思いを赤十字へ…

近年、ご自分や故人の財産の一部などを広く社会に役立てたいというご相談やお申し出を多くいただいております。

当県支部では、こうした尊いご意思に応えるために、遺産・相続財産の寄付などを承っております。また、これらの寄付金には非課税となる税制上の優遇措置があります。詳しくは、下記までお問い合わせください。

寄付金付自動販売機

置く人も、飲む人も気軽にできる社会貢献

飲み物をお買い上げの度に、一定の額が寄付金となります。事業所などでの設置についてぜひご検討ください。詳しくは、右記までお問い合わせ願います。



 **日本赤十字社** 鹿児島県支部
Japanese Red Cross Society

 **099 (252) 0600**

URL : <http://www.kagoshima.jrc.or.jp/> E-mail : shibu-rc@po.minc.ne.jp

日赤鹿児島県支部

検索